

会議結果報告書

会議の名称	令和7年度第4回札幌市子ども・子育て会議 認可・確認部会
日時・場所	令和8年1月13日（火）書面開催にて実施
出席委員 5名/5名中	星 信子、加藤 智恵、菊地 秀一、星 林奈、藪 淳一（敬称略）

議事	概要
<p>議題1 利用定員の設定について</p> <p>議題2 認定子ども園（幼稚園からの移行）の整備計画及び認可について（非公開）</p>	<p><委員意見・質問なし></p> <p>提示した利用定員の設定（既存幼稚園から幼保連携型認定こども園への移行2件）について、議題2における整備計画の承認を前提として、本案のとおり承認された。</p> <p>認定こども園の整備計画及び認可（2件）について、全体で5件の応募があったが、計画予算を超える応募があったため、共通審査基準に適合していることを確認した後、個別審査基準による点数評価を行い、点数が高い順に計画予算の範囲内で選定を行う。札幌市の審査では、全ての整備計画において共通審査基準の項目全てを満たしており、総合評価として「適」と判断した。次に個別審査基準による採点を行い、点数が高い順に選定を行った結果、「学校法人前田学園」及び「学校法人景盛学園」の整備計画2件で計画予算に達する見込みである。</p> <p>設置認可申請時点において、これらが計画どおりになっており、職員配置等が基準を満たしていることを札幌市において確認できる場合に限り、認可することが適当であるとの条件を付した上で、本案のとおり承認された。</p> <p><主な委員意見・質問></p> <p>（委員）各園とも、幼保連携型認定こども園整備事業の応募に向けて、多くの時間、経費、労力をかけていると考える。個別審査基準において、移行に向けてのプロセス、特にどの程度中長期的な計画をもって応募しているかについても、点数化することはできないか。また、採択されなかった園は、次年度優先されるなどの仕組みについても検討していただきたい。</p> <p>（委員）個別審査基準のうち、「1 事業計画との整合性」にある「(1) 定員の規模 定員設定が供給不足解消に寄与する」について、見直しが必要と思われる。保育ニーズが減っている現状、2号3号の供給不足に寄与するかどうかは、以前に比べそれほど大きな意味をもたないと考える。また、多くの定員を設定できる大規模園に有利な基準である。この基準が相対評価であることによって、最大7点の差がついているため、点数を小さくする、あるいは絶対</p>

<p>議題3 認定こども園（改築）の整備計画について（非公開）</p>	<p>評価にするなどの見直しが必要と思われる。</p> <p>→（事務局）現行の個別審査基準については、いただいたご意見も踏まえつつ、社会情勢の変化に応じたより適切な評価基準となるよう、今後、本部会において議論いただきながら、見直しに向けた検討を進めてまいりたい。</p> <p>（委員）幼保連携型認定こども園整備事業が今後も継続的に行われることを希望する。確かに保育ニーズは減ってきているが、乳児から5歳児まで同一施設で一貫した教育・保育方針のもとで育つことができる環境、また3歳未満児がいることによる3歳以上児の育ち、3歳以上児がいることによる3歳未満児の育ちなど、施設としてのメリットも大きいと考える。子どもの育ちの視点から、幼保連携型認定こども園への移行を促す施策の充実と継続について、前向きな検討を希望する。</p> <p>→（事務局）ご意見にある幼保連携型認定こども園の教育・保育上のメリットは、本市としても重要であると認識しており、幼保連携型認定こども園への移行促進については、各幼稚園等の意向を踏まえ策定した「アクションプラン2023」に基づき、2023年度からの5年間の整備目標を達成できるよう、引き続き整備事業を継続していく考え。</p> <p><委員意見・質問なし></p> <p>幼保連携型認定こども園（改築）の整備計画（2件）について、全て適性であるとして、本案のとおり承認された。</p>
---	--